

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」  
平成28年度 柳津町立西山中学校

# 学校だより

平成28年4月22日(金)発行 第 4 号 発行責任者:高橋 弘悦

## 「みんぼう出前塾」開催 新聞をどう読むかが理解できました



22日、福島民報社の方においでいただき、「みんぼう出前塾」を開催しました。

ニュースの最前線で働く本社編集局の幹部社員の方に、「ニュースの読み方・生かし方」などを分かりやすく解説していただきました。

情報過多の時代にあって社会人としての確かな情報をつかみ、その背景や真意を知ることが、個々のコミュニケーション能力を高めるためにも重要・不可欠な要素といえます。

授業では、地元マスコミならではのお話しに、生徒も引き込まれるように聞き入っていました。お話をいただいた編集局企画委員の市川純一氏からは、「今日の内容を家の人に伝える活動をして欲しい。それがこれから必要になる力だ」というお話をいただきました。

「伝える」ためには、必要な情報を一旦自分の中に取り込み、それを自分なりの理解を加えて咀嚼する必要があります。さらに、伝えるためには、その内容を整理するしなければなりません。日常の学習の仕方にもつながるお話しです。今後も心がけて実践していきたいものです。



# 新聞作り学ぶ



新聞が作られるまでの流れを学んだ生徒

## 「民報号」が西山中訪問

### 生徒、伝える工夫を理解

柳津町の西山中で二十二日、全校生が新聞について学んだ。福島民報社の移動編集車「民報号」が同校を訪問。記者から毎朝配達される新聞がどのように作られているのかを聞いたほか、学習や日常生活に役立つ新聞の読み方にも理解を深めた。

生徒は初めにDVDで取材、執筆、レイアウト、印刷など新聞作りの流れを学んだ。

この後、読者に情報を分かりやすく伝えるための工夫などについて聞いた。記事は大切な内容から順番に書いていくこと、見出しは記事の要点を短い言葉で表すことなどを理解した。

新聞の読み方については、まず見出しだけ目を通したり、興味のある分

野から読んだり、気になる記事をストックするなど、気軽に紙面に触れることで新聞を身近に感じ、社会への関心が高まることを学んだ。

東日本大震災、東京電力福島第一原発事故からの復興に向け、新聞が果たす役割などについても聞いた。

「民報号」では、この日の学習の様子を伝える号外を作り、全員に配った。